

私のミルフォードトランピング

ミルフォードサウンドなど

12月16日(月) 6:30am 起床、ミルフォードトラックのガイドドウォークは今日のミルフォードサウンド・レッドボートクルーズまでがセットになっている。

ミルフォードサウンドはフィヨルドランド国立公園の一部として世界自然遺産に登録されている。ミルフォード Milford と云う名前は最初の発見者ジョン・グロノ(アザラシ猟師)の生まれ故郷、ウェールズのミルフォード・ヘーブンにちなんで付けられた、詰まり Milford Sound が最初である。

実は、此処はサウンド sound (入り江)ではなくフィヨルド fiord (氷河の進退によって削られたU字谷に海水が入り込んだ地形)なのだが、発見当時その知識がなかったためにサウンドと名付けられてしまった。ミルフォードサウンドはタスマン海から 15 km 内陸まで続いており、1200m 以上の断崖絶壁に囲まれている。最も有名な山はマイターピーク Mitre Peak 1692m で海水面から直接そそり立つ山としては世界で2番の高さを誇っている。フレッシュウォーター入江の埠頭から 9:00am 発、約2時間のクルーズだ。



レッドボートクルーズ



いざ乗船



ガイドのロスと



霞むマイターピーク



ボウエン滝



墨絵の世界



スターリング滝



アザラシ岬



プリンス夫妻乗船ポート

今日も雨雲が深く垂れこめておりマイターピークの頂きも見えないが、霧で薄墨色に霞む岩壁から白く筋を曳いて流れ落ちるボウエン滝やスターリング滝をはじめ、多量の雨の時しか見られな

い無数の滝カスケードは墨絵の名画を目にするようだった。ボートはタスマン海の灯台を回り、入り口のデールポイントからアザラシ岬を経て帰着しが、ガイドがあれば昨日日本のプリンス夫妻が乗った船だと教えてくれた、待合室にはお二人の写真も掲示してあった。

10:50am バス発、ミルフォード・ロードでホリフォードバレーからテアナウへ向かうが、途中のタルボット山の岩盤を削り抜いたホームートンネル Homer Tunnel 1219m は完成まで 18 年を要したが、1953 年の完成こそがミルフォードトラック成功の鍵になったと云われている。途中のホリフォードバレー、エグリントンバレーの荒々しい景観は素晴らしい。4 時間のバス旅でワカティプ湖畔のクイーンズタウン、コプゾーンホテルに到着、これで今回の旅の主目的は殆ど達成したと云って良い。



お二人の写真が



ホームートンネル



ホリフォードバレー



コプゾーンホテル着

夕食は外ですることになり、歩いて街の中心部へ向かいビーチストリートのギフトショップ Aotea の前で解散、ニュージーランド土産定番の羊毛製品、羊の油脂から作ったラノリンのフェイスクリーム、リップクリーム、等をそれぞれが買い求めてから同楽酒樓で食事、中華なので紹興酒を飲んで今度は歩行者天国で有名店が並ぶ The Mall へ行った。



ラノリンクリーム



メリノウールグローブ



マヌカハニー



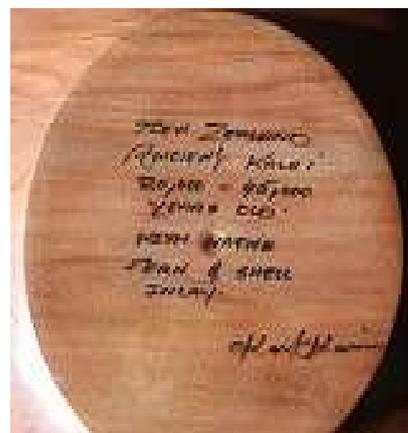
ザモール



ボンズ



エンシェントカウリ木皿



裏面のサイン

入った店は Bonz、家内への土産はメリノウールのセーターにしたが、私自身今回の記念に思い切って買ったのは埋もれ木の古代カウリの木皿、裏面に 80000~45000 年前の Ancient Kauri (アガチスと云う針葉樹で北島のワイポウアにはタネマフタ「森の父」と呼ばれる巨樹があり樹齢 2500 年、幹回り 16m、樹高 50m で屋久島の縄文杉と姉妹木協定を結んでいる。カウリの祖先は 1 億 9000 万年前恐竜のジュラ紀に遡り、地球上で最も古い植物の一つに数えられる、尚 5 万年以上前の氷河時代に氷河の下に埋もれ、現代に発掘されたものをエンシェントカウリと呼ぶ) に天然の羊歯と貝を象嵌したとあり制作者のサイン Kark Kain があるもので 325 \$ だった。

皆と別れ同室の西村さんと一寸カジノを覗いてから標高 730m のボブズヒル Bob's hill に登ってみることにした。街から 5 分、キーウイパークの先にスカイラインゴンドラ乗り場がある。



ボブズヒルへのぼる



ボブズヒルからの夕景

世界一の傾斜度 37.1 度を 4 分で登り切って着いた頂上からの眺めは素晴らしかった。時間は 9:00pm になっていたが此処からの景色はトワイライトが最高とされているらしい、眼下に煌くクイーンズタウンの街明かり、佇むワカティブ湖の向こうにはセシルピーク 1974m の山々が連なる。幻想的なパノラマに包まれた興奮はホテルに帰っても冷めやらず 6 階のバーへ行ってドライマテニーの助けを借りるしかなかった。



日暮れのコプソンホテル



6階のバーへ

12月17日（火）今日は長旅なので4時にウェイクアップコールでバスは5:00am 発車、車中で稲荷ずし弁当の朝食、8:50am テカポ湖でコーヒブレイクして、10:20am アッシュバートン、カンタベリー平野を横切りロールストンから12:00am クライストチャーチに到着、ドライバーのポールが街を一周してくれた、大聖堂、エイボン川、キャプテンクック像、マオリのトーテムポール等さすがに南島最大の街で美しく整っていた。 昼食は空港に近く皇太子夫妻も立ち寄った国際南極センターInternational Antarctic Centre（クライストチャーチは南極への物資補給基地になっている）でカンタベリーの地ビールを飲んでから空港へ向かう。 沢山の思い出が一杯に詰まったニュージーランドともいよいよお別れだ。



クライストチャーチ・エイボン河畔



キャプテンクック像

QF46 便は4:10pm テイクオフ、タズマン海を越えて2127km先のオーストラリア、シドニーへ向かう。 時間差は僅か45分だが時差が2時間あって4:55pm シドニー空港ランディング、可成り北上したので外は22°C、なんでも日中は30°Cあったらしく暑い。



クライストチャーチ空港



シドニー空港



ハーバーブリッジ



Sushi Counter



オペラハウス



カンタス航空

クライストチャーチとシドニーでは緯度で 10 度の差があるから日本と台湾の差に相当するわけでこの暑さは当然かもしれない。

今回の旅程が決まった時、シドニーで家内の従弟が数年前から寿司屋をやっているので帰りに寄ることにして連絡してあった。日本からニュージーランドへ行くのにシドニーでトランジットするのはニュージーランド航空の直行便よりカンタス航空を使う方が安いからだが、私にとっては此の方が有難かった。もしよければと同行の 2・3 人に声を掛けたがやはり市内観光したいというので一人で行くしかない。タクシー乗り場へ行ったが中々タクシーが来ずやっと来た車に乗ってドライバーに行先の Willoughby Road 64 を告げる、プエルトリカンらしいドライバーが橋は好きかというので Yes と云ったらハーバーブリッジを渡ることになる、昨夜もホテルから確認の電話をした際、ハーバートンネルで来るように云われていたのに高い料金を払うことになってしまった。近くに来ている筈なのに中々目的の地番が見つからず、滝沢さんに借りた国際携帯電話を使わねばならないかと思っただが、何とか見つかってそこまでにはならずほっとした。Sushi Counter は大きくはないが横長で清潔な感じの良い店だった。

家内の従弟山脇久徳さん、奥さんの百合子さんとお友達が 2 人見えていて早速白ワインで歓迎の乾杯となりにぎりをご馳走になる。オーストラリアの白ワインは近年国際的な評価も高い、タスマン海の雲丹、穴子、しめ鯖も美味かった。帰り、お土産にスモークサーモンを頂いて、折角だからユニークな建物で有名なオペラハウスに寄ってみたら何と其処で我等一行とパツタリ出会ったのには驚いた。空港について先程飲んだウイング印の白ワインを探したが見つからず残念、スモークサーモンを機内預けの手続きをしてから QF21 便で 10:55pm テイクオフ、水平飛行になって直ぐのディナーではワインを赤白 2 本、この飛行機は珍しく速く飛んで翌朝 6 時前に成田空港上空に至り、空港開場の 6 時迄 10 分間旋回飛行して 1 番機として着陸と云う珍しい経験をした。これで憧れの「ミルフォードトラクトランピング」の旅は全て終了、心地よい疲れに身をゆだねている。今回ニュージーランドのごく一部を見ただけだが、この国は“美しい不思議な国”

だった。



タネマフタ（森の父）巨木カウリ



今も息づくマオリ

山、川、森、滝、湖、それらは太古から変わらぬ自然の造形を其のまま留めている、温帯にありながら氷河が多く、今なお成長を続ける氷河、海岸線から僅か数百メートルに迫る氷河などは世界中何処にもない、飛ぶ必要がなくなった鳥たち、モアの背丈に合わせて葉の形を変える樹木などの不思議な進化、野山の花が殆ど白か黄色なのはこの色が目立つ夕暮れ時に飛ぶ蛾が多く、昼に飛ぶ蝶は少ないからという。街は綺麗に整っていて花好きの人達に飾られているし、人が少なく景観を阻害する電線や看板がない。これ等の全てがこの国の魅力であり、此の旅を満足させただけでなく、更にもっともっと知りたいと思わせる品揃えでもある。我等が歩いたミルフォードトラックは1952年に登録されたフィヨルドランド国立公園にあるが、此の周りにはアオラキ/マウントクック国立公園、ウエストランド国立公園、マウント・アスパイアリング国立公園を含めて1990年に「テ・ワヒポウナム南西ニュージーランド」として世界自然遺産に登録されている。テ・ワヒポウナムはマオリ語でグリーンストーン（翡翠）の産地を意味している、正に宝の山だ、此の儘で終らせることはない、遠からず再訪することは間違いないだろう。（了）

【2020年4月28日 山本 浩 リメイク版】